

1 研究主題

体を動かす楽しさを感じ、運動に親しもうとする児童の育成
～ 目標を見付け、できるようになる楽しさを味わわせることに重点を置いて ～

2 研究主題について

昨年度は、児童の運動に対する意欲を高めることに重点を置いて授業実践を進め、運動の楽しさを感じさせたり、気付きを促したりすることができた。その結果、休み時間や授業場面など、運動を楽しむ姿が多くみられるようになった。しかし、展開場面において、うまくいかないことやできないことが多くなると、意欲が低下してしまう児童がいた。

そこで、本年度は、展開場面において、「こんな技ができるようになりたい」、「ハードルのタイムを1秒縮めたい」というように、一人一人に明確な学びの目標を設定し、「最初はどううまくできなかったことが、できるようになっていく楽しさ」へとつなげていく。まず、課題となる運動を「チャレンジタイム」で体験させる。その経験を基にして、達成したい自分の目標を自己選択させたり、自分の動きを分析し、練習方法や内容を自己選択したりできるように実践を進める。

そうすることで、児童に「できるようになる楽しさ」を味わわせ、目指す児童像である『体を動かす楽しさを感じ、運動に親しもうとする児童』に迫っていけると考える。

3 研究の内容

(1) 目指す児童の姿

目標を見付け、できるようになる楽しさを味わうことによって、体を動かす楽しさを感じ、運動に親しもうとする児童。

(2) 手立て

○ 児童の運動技能を高めるための工夫

① 目標を自己選択する。

自分が高めたい動きを自己選択し、練習に取り組ませる。

例) バasketボール（異なる種類の目標から選択させる場合）

目標A シュートの成功確率を上げたい

目標B パスの種類を増やしたい

目標C ドリブルをより素早くできるようにしたい

例) バasketボール（異なる段階の目標から選択させる場合）

目標D ドリブルを左右交互で連続30回成功させたい

目標E ドリブルを連続50回成功させたい

目標F ドリブルを連続30回成功させたい

② 練習方法を自己選択する。

練習の仕方を自己選択し、練習に取り組ませる。

例) マット運動 (後転)

方法A モデルの動画で動きを確認しながら、練習をする。

方法B 友達の動きを参考にしたり、コツを教わったりしながら練習する。

方法C 自分の動きを動画に撮って、練習をする。

(3) 手立ての検証

- 年間通して実践を行い、児童の発言や様子、ワークシートの記述の変容をみる。
- 児童の実態調査やアンケートを通して、実践前と実践後の変容をみる。